
[た よ り]

宮城県支部だより

道又勇一

日本透析医会雑誌に平成12年（Vol.15 No.1 2000）宮城県支部だよりを投稿して以来2回目の投稿となります。

本年度は診療報酬の改定が行われ透析医療の現場の苦しみは計りしえないものがあります。このような現状のなかで透析患者の要望に応えながら良質な透析医療を提供するためには支部の透析医会は勿論のこと、日本透析医会・日本透析医学会、日本医師会に代表される医療界の一致団結が必要であります。

宮城県透析医会は関野宏会長のもと1978年10月に結成され、2004年6月現在で50施設（ベッド数約1,350床）の会員を数え、総透析患者数は約3,600名であります。施設の設置場所は宮城県内の患者の治療に十分に答えられるよう地域に配分されており、施設

の80%は私的医療機関であります。

宮城県透析医会の事業は、①会員間の相互福祉、②関係官庁・医師会・基金審査会との連絡協調、③会員・スタッフの透析医療に関する研究・教育などでありませ

毎年12月に開催される、宮城県腎不全研究会（今年度は33回）には午前中は各施設から多数の演題が提出され、午後はテーマを絞ったシンポジウムで意見を交換し有意義な研究会としております。県内各地で行われていた勉強会を、今年度からは宮城県透析医会主催として年2回の開催を予定しております。

前回の支部だよりでも触れておりますが、透析患者の高齢化が進み、入院透析の増加への対応が今後の問題として残されております。